【様式】

令和５年度　学校マネジメントシート

学校名（　いなべ総合学園高等学校　）

1　目指す姿

(1) 目指す学校像		自主自律のもと「生徒一人ひとりの能力の伸長」と「教職員の達成感」を常に追い求め、地域の人々に信頼される学校を目指します。
(2)	育みたい児童生徒像	○　自己管理ができ、進路実現に向け主体的に学習や部活動等の教育活動に取り組んでいます。 ○　人間関係力やコミュニケーション能力があり、チームとして活動ができます。 ○　地域社会に興味・関心を持ち、主体的に社会貢献に取り組んでいます。
	ありたい教職員像	○　学校全体の情報共有・意思疎通を図り、「誰のため」「何のため」を意識して、教育活動に取り組みます。 ○　言葉だけでなく、自らの姿（行動）からも教え育てます（「率先垂範」）。 ○　生徒に寄り添い、生徒と対話し、一人ひとりの力を引き出します。 ○　仕事にやりがいを感じ、生徒の成長を自らの喜びとします。

2　現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈生徒〉 　進路実現に向け、充実した高校生活。 〈保護者〉 　安全・安心で師弟同行が感じられる充実した学習環境。 〈地域〉 　学校の専門知識や施設の提供による地域の活性化。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	〈家庭〉 　連携・協力するにあたって、学校の現状や課題の共有。 〈中学校〉 　高校生活や進路状況等、情報の提供。 〈地域〉 　地域の活性化のための若い力の提供。	〈家庭〉 　本校教育方針への理解と協力、共に育てるための信頼と連携。 〈中学校〉 　効果的な指導をするための生徒の情報共有。 〈地域〉 　本校教育活動への理解、共に育てるための信頼と連携。
(3) 前年度の学校関係者評価等	・　働き方改革を進めるにあたっては、本来教師がすべき仕事と教師でなくてもよい仕事についてしっかり考えたうえで、対応するべきである。 ・　総合学科ということで、科目の選択をはじめ、子どもたちが選択を迫られる機会が多いことは、いなべ総合学園の強みである。子どもたちに寄り添い、主体的に選択できるよう指導していってほしい。 ・　中学校卒業までに選択することが少なかった子どももおり、高校で選択を迫られることに負担を感じる子どももいることから、日頃からの関わりを大切にしてほしい。 ・18歳成人に関して、保護者の立場からは大きな戸惑いを抱いているので、消費者教育などしっかり取り組んでほしい。 ・　計画に基づき、しっかり取組を進めていただいているので、引き続き、家庭・地域と連携した取組を進めてもらいたい。	

(4) 現状と課題	教育活動	○学習指導について ・　学力向上を図るため、学習習慣の確立や学習意欲の向上に向けた取組が必要です。年次と教科が連携し家庭学習時間の増加に向けての取組が進められていますが、生徒個人個人の差が大きいのが現状です。主体的・対話的で深い学びの実現、ICTの有効活用等、生徒の興味・関心を引き出す魅力ある授業づくりに継続的に取り組みます。 ○進路指導について ・　生徒の進路は多岐にわたり、多様な対応が求められています。社会の動向や生徒の実態を踏まえ、進路指導部と年次の連携のもと進学・就職共に良い結果に繋がるよう、キャリア教育、公務員対策や課外授業などの更なる充実を図り、生徒の進路実現に取り組みます。 ○生徒指導について ・　落ち着いた教育環境の中、生徒は学習活動に取り組んでいます。今後もいじめの早期発見・早期対応に取り組むとともに、生徒会等と連携し、規範意識の向上や命を大切にして生き抜く力の育成に積極的に努めます。 ○保健管理について ・　元気で活発に高校生活を送ることが大切です。心身の健康に関する知識や関心を高めるため、引き続き健康教育及び環境教育の充実、相談できる体制づくりに取り組みます。
	学校運営等	○開かれた学校づくりについて ・　学校の最新情報をホームページや説明会等により積極的に情報発信し、本校の魅力を多くの人に伝える取組を引き続き行います。 ○学校経営改革について ・　信頼される学校を実現するため、行動計画を策定し積極的に実践します。また、風通しの良い職場環境づくりに努め、課題や情報の共有、課題解決に向けた現職教育（校内研修）の実施等により、教職員一人ひとりの資質能力の向上に努めます。 ・　教員が心にゆとりを持つことで、充実した教育活動が実践できると考えられることから、総勤務時間の縮減に向けて会議時間の縮減等、更に具体的に取り組んでいきます。

３　中長期的な重点目標

教育活動	・　学習習慣の確立や学習意欲の向上に向け、引き続き、生徒の興味・関心を引き出す魅力ある授業づくりに積極的に取り組んでいきます。 ・　進路保障の充実に向け、キャリア教育や課外授業等において、成果を見据えた取組をしていきます。 ・　成年年齢１８歳を見据え、成人として必要な知識・技能を生徒が身に付けられるよう取り組むとともに、基本的生活習慣や規範意識（美化意識）の確立など社会性の育成に向け、生徒会を中心に保護者や地域と連携し、生徒自身が自発的に意識を高めていく雰囲気づくりに取り組んでいきます。 ・　命を大切にし、生き抜く力の育成に向け、人権教育や危機管理教育等、意識の向上に繋がる取組を積極的に行います。
学校運営等	・　学校の最新情報等をホームページなど様々な角度から情報発信し、本校の魅力を多くの人に伝える取組を積極的に行います。 ・　信頼される学校を目指して、行動計画を策定（更新）し積極的に実践します。また、風通しの良い職場環境づくりに努め、課題や問題の共有、その課題解決に向けた現職教育（校内研修）の充実など積極的に取り組んでいきます。 ・　総勤務時間の縮減に向け、会議時間の縮減など、具体的に取り組んでいきます。

4　本年度の行動計画と評価

（１）教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。
（例）「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
○学習指導	・ 生徒一人ひとりの学力の伸長を図ります。上位層・下位層の引き上げを重点的に行う方法を研究します。	・上位進学希望者に対し特進塾を活用するとともに、成績不振者に対しては補習を実施しました。	
	・ 授業の創意工夫と改善に努め、主体的・対話的で深い学びの実現やICTの有効活用等により、きめ細かい授業展開を推進します。家庭学習の強化など教職員間の情報共有を図り、生徒のよりよい進路希望実現に向けて授業改善に努めます。	・教員が相互に授業見学を行いました。また、一部の教員ですが、授業研究のための自主研修も行いました。次年度も充実を図ります。	◎
	・「産業社会と人間」や「IVYタイム（総合的な探究の時間）」におけるキャリア教育を通して進路希望の実現を図ります。	・生徒の希望を尊重しつつ、教員配置も勘案したうえで、新教育課程の科目登録を行うことについては、引き続き改善に向けた検討が必要です。	◎
	・ 予習・授業・復習のサイクルで学習習慣の確立に努めます。提出物の徹底と期限を守れるよう指導します。	・各授業に「振り返り」を導入するとともに、GoogleClassroom を活用した文書配付等の改善を図っていく必要があります。	
	・ 生徒の進路決定の実現に向けて、定期的な面談を通じて、きめ細かく指導します。	・科目登録に関する面談は計画通り実施しました。	
	・ 年次と教科の連携を強め、生徒の情報共有を図ることで、学習習慣・生活習慣の確立を推進します。	・連携の強化を図り続ける必要があります。	
○進路指導	・ 進路ガイダンスや保護者説明会、三者懇談を通して、生徒・保護者との相互理解を図り、生徒の進路実現に向けた協力体制を構築します。	・1 年では科目選択に関して、また2，3年では進路希望に沿った保護者会や進路相談会を計画通り実施しました。	
	・ 各年次と分掌との連携を強め、生徒に必要な情報を共有し、計画的な進路指導を行います。	・年次と生徒情報を密に共有し進路指導を行いました。	
	・ 定期的な個人面談を通じて現状把握を行い、生徒の進路実現につながる科目選択ができるよう指導します。	・「産業社会と人間」等によりキャリア教育を行いながら、年次と基本的な方向性を共有し、科目選択について指導を行いました。	

	・「産業社会と人間」や「IVYタイム（総合的な探究の時間）」などキャリア教育を充実させ、生徒の進路意識を高めます。また、地域と連携した学習を通して、社会貢献できる人材育成に取り組みます。	・キャリア教育については、計画通り進めることができました。新たな取組として、非認知能力を測るテストを実施するとともに、年度末には(株)ENAGEED の教材を用いた探究学習を行いました。	
	・ 進学に関しては、国公立大学合格を目指し、いなべ特進塾や夏季課外の充実により一般選抜に対応できる高い学力の養成を図るとともに、総合型選抜、学校推薦型選抜にも対応できるように面接指導・小論文指導などを進めます。	・総合型・学校推薦の生徒には個々の状況に合わせたきめ細かい指導を行いました。国公立大学・私大一般選抜を受験した生徒については、概ね進路希望を実現することができました。	
	・ 就職に関しては、計画的・継続的な問題演習により基礎学力の向上を図り、面接指導を充実させることで、就職内定１００%を目指します。また公務員志望者には早期から対策問題演習に取り組ませることで学力向上とともに意識を高め、進路実現に繋げます。	・3年次をはじめ年次・分掌と協働し、就職希望者全員が早い時期に内定を得ました。公務員も早期からの演習により進路実現につなげることができました。	
○生徒指導	・ 基本的生活習慣の確立に努め、学校生活が有意義で興味深く、充実したものになることを目指します。	・自己の持ち物の管理の徹底を常時呼びかけ、ロッカーの施錠もチェックしていましたが、ロッカーの錠を開けられる被害や校内での金銭盗難被害が発生しました。これを受けて協議を繰り返し、校舎入り口付近に防犯カメラを設置するなど、不審者の侵入対策を行いました。	
	・ 学校や社会全体の規則の遵守とマナーの向上に取り組みます。	・生徒会活動と連携して、校内の規則の遵守を呼びかけました。特に防寒着の規定については生徒会執行部を適切に指導しながら、その改定を実現することができました。	
	・ 安全教育の徹底、環境美化の推進を目指します。	・川越自動車学校による自転車の乗車マナーやヘルメット着用の必要性などを主旨とした講話を行いました。生指通信や講話、またチューターを通じた安全教育を行い、命の大切さを伝えました。	
	・ いじめの早期発見・早期解決を目指すとともに、いじめを許さない雰囲気を形成します。	・いじめ被害に即応するため、「いじめ等相談窓口」を Google Classroom に開設	

		し、これまで6件の相談が寄せられました。年に2回、「学校生活アンケート（いじめアンケート）」も実施して生徒の、いじめ防止委員会を中心として、それぞれの事象に対応することができました。	
	・　人権に配慮した生徒指導を行います。	・防寒着の着用規定について、生徒会執行部を適切に指導しながら、その改定を実現するなど、生徒の声を聴きながら、規則の遵守やマナーの向上について指導しました。	
	・　各分掌や各学年と連携を図り、学校全体での生徒指導を心がけます。	・部会を定期的に開催するとともに、拡大生徒指導委員会も、昨年度よりも2回多い7回開催して情報共有を図り、他の分掌、学年とも連携を密にすることができました。職員会議等で職員間の情報共有と連携を図ることができました。	
○保健管理	・　保健環境委員会活動を通じて、心身の健康に関する知識、関心を高めます。また、環境美化の活性化を図ります。 ・　定期的に保健通信を発行し、感染症対策の意識向上、健康を守るための知識を指導します。 ・　生徒がいつも安心して来室でき、心身ともに休むことのできる保健室を目指します。	・本校の状況（感染症の流行、「寒い」という理由で来室者が増えている場合の対策、朝ご飯を食べない生徒の来室増加等）を踏まえ、記載する内容を検討したうえで、毎月、保健通信を発行しています。	
	・　心に悩みのある生徒を教育相談につなぎ、広くカウンセリング室の利用を図ります。	・スクールカウンセラー相談のべ件数、生徒 39 人、保護者 3 人、教職員 13 人、コンサルテーションを行った教職員 50 人（2 月末現在） 教育相談員面談のべ件数 生徒 13 人（2 月末現在）	
	・　保健環境部が中心となり、各年次、生徒指導部、外部機関等と連携を図りながら、心に悩みのある生徒の支援に努めます。	・生徒・保護者・教職員に対し面談支援等を行いました。＜2 月末現在＞発達障がい支援員の派遣を要請（7 回）、本校生徒の兄弟が通う中学校と本校チューター・養護教諭・教育相談係との情報交換会（1 回）、ケース会議の開催（15 回） ・保健室来室生徒で気になる生徒（精神面や体調面等）がいた場合、チューター	

		やクラブの顧問に報告するとともに、様々な教職員と協力し生徒を見守りました。	
	・ 学年やチューターと協力して、ゴミの分別への啓発活動を行い、その習慣を身につけるよう指導します。 ・ 日常の積極的な清掃活動の推進を図り、校内美化に取り組みます。	・ゴミ箱に注意喚起の言葉を掲示するなど、ペットボトルのキャップ・ラベルはがし指導を行いました。年度初めに比べ、ゴミの分別ができるようになっています。	
	・ 教室等の整理整頓を意識させ、学習環境の整備を図ることで、学習意欲の向上につなげていきます。	・ゴミの分別が完全にできている訳ではないことから、ゴミ分別 100%を目指したいと考えています。	
	・新しい取組として、学校環境週間を 2 ヶ月に 1 回を設定し、「節水・節電・清掃活動・物を大切にする」の 4 つの観点を、各教科・LHR・あらゆる学校生活を通じて、主体的に取り組む意欲と態度を育みます。	・環境週間を設定しましたが、その効果については測り切れていません。	

改善課題
○ 主体的・対話的で深い学びの実現、ICTの有効活用などの観点からの授業改善に終わりはないことから、継続的な取組が必要です。 ○ 総合学科の魅力である幅広い科目選択と現実的な時間割の編成を両立するという観点から、教育課程及び系列・系統の見直し、科目登録における年次と分掌の連携が必要です。 ○ 人々の価値観や社会の変化が激しいことを踏まえ、教育活動全般を不断に見直し、全ての人の人権に配慮した教育活動を進める必要があります。 ○ 生徒が安全・安心に学校生活を送ることができるよう、いじめの早期発見・早期対応、相談できる体制づくり、環境整備に、引き続き、努める必要があります。

（２） 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。
（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
○保護者・地域住民等との連携・情報発信	・ 保護者や地域に向けて、ホームページや広報冊子などで積極的な情報発信に努めます。	・ホームページは月1回以上の更新、広報誌は中学生向けに「学校案内」、「IVY通信」、保護者向けにPTA広報誌「つたわかば」（年2回発行）などを発行しました。	
	・ 学校説明会（10月14日）の内容を充実させ、中学生及び保護者に向けて、本校の魅力発信に努めます。	・中学生向けの学校説明会(10/14)は、昨年より多くの参加者がありました。（全体会は体育館で実施） ※申込み者数：中学生 536 人(昨年比+35)、保護者 329 人(+30)、計 865 人(+65)	

	・ きずなネットなどを利用して、生徒及び保護者に学校行事予定の定期的な発信や緊急連絡の発信に努めます。 ・ 台風や大雪などの緊急連絡について、できるだけ早い段階で判断し通知するよう努めます。	・きずなネットは、緊急連絡（大雪時の対応など）と、定期連絡（行事予定や事務室からの連絡）を効果的に配信しました。※登録者数：生徒 779 人、保護者 1039 人（どちらも延べ人数） 次年度は「すぐーる」導入の予定です。	
	・ 年次通信を定期的に発行し、学校の様子を保護者に伝えます。	・年次通信も長期休暇前等定期的に発行し学校の様子や考えを保護者と共有できるよう努めました。	
	・ 三者懇談会で、保護者に丁寧に分かりやすく学校の様子を伝えます。 ・ 進路別保護者会などにおいて、保護者のニーズに合った情報を分かりやすく提供します。生徒、教職員、保護者の三者が一体となれるよう、連携の強化に努めます。	・三者懇談及び進路や科目登録に関する保護者説明会等の機会を活用し、保護者との連携強化に努めました。	
○働きやすい職場環境づくり	・ 教職員が健康を保持し、私生活を充実させるため、定時退校日の設定や会議時間の縮減等に取り組み、総勤務時間の縮減を図ります。 【活動指標】 ① 定時退校週間に1日以上定時退校できた教職員の割合：95%以上（昨年度 91.0%） ② 部活動休養日を週1日設定し、休養日を実施できた部活動の割合：100%（昨年度 99.2%） ③ 放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合：80%以上（昨年度 72.1%） 【成果指標】 ① 1人当たりの月平均時間外労働：20 時間以下（昨年度 26.3 時間） ② 年 360 時間を超える時間外労働者数：0人（昨年度 25 人） ③ 月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数：0人（昨年度 39 人） ④ 1人当たりの年間休暇取得日数 26 日（昨年度 25.6 日）	① 90．1% ② 99．6% ③ 73．5% ① 25．7時間 ② 24人 ③ 34人 ④ 24．4日	
	・ 良好な学習環境のための適切な施設整備及び一般的な消耗品の在庫管理を行います。 【活動指標】 ①各倉庫の消耗品の在庫チェックを年1回以上行う。 【成果指標】 ①一般的な消耗品の在庫切れなし	①各倉庫の整理整頓の行ったうえで、在庫チェックを適時行い、一般的な事務用品の在庫切れはありませんでした。	
	【活動指標】 ②校内の施設環境整備のチェックを年1回以上行う。（費用の発生する工事、修繕等を除く） 【成果指標】 ②校内施設環境整備実績 1 回以上	②職員からの報告を受けた際に直ちに改善を行いました。（放置自転車撤去、パブリックストリート等への自動車進入禁止案内	

		設置ほか各種表式等多数）	
○資質向上の取組及びチームワークの向上	・ コンプライアンス・ミーティングを実施し、不祥事根絶を目指すとともに、学校に関わる全ての人々から教職員が一層の信頼を得るため、言動に注意し、職務に励み、説明責任が果たせるように努めます。 【活動指標】コンプライアンス・ミーティングを年１回以上実施	実施（3/22）	
	・ 生徒の実態に沿った教育課題等について教職員間で共有し、その課題解決及び一人ひとりの資質向上を図るため現職教育（校内研修）の充実に取り組みます。 【活動指標】現職教育を年２回実施	・コーチング研修（7/20）、特別支援教育研修（11/15）、災害と人権に関する研修（12/22）を実施しました。	
	・ コミュニケーションを大切にし、風通しの良い職場とすることで、教職員が同僚性を育み一体感を醸成できるように取り組みます。	・校長と教職員の面談を定期的に実施しました。また、職員会議等で教職員が積極的に発言できる雰囲気の醸成に努めました。	
	・ 様々な危機に対応できる体制の強化に努め、安全・安心な学校づくりに努めます。	・生徒昇降口のガラスに飛散防止シートを貼り付ける工事を実施しました。	
	・ 校内ネットワークの管理に努め、統一校務システムを適切に運用します。	・校内ネットワークの更新について情報共有や研修会（1/17）を企画し、適切に運用できるように取り組みました。	
	・ 現状にあっていない内規の改訂、分掌内での引継ぎ資料の作成を適切に行います。	・生徒心得を見直しました。	

改善課題

○ ホームページ更新や広報冊子等の発行など、計画的に実施していますが、形骸化していないか、何を伝えたいか、何のため、誰のために情報発信しているのか等について、改めて確認する必要があります。
○ 総勤務時間の縮減や年休取得促進は、一人ひとりの教職員の健康を保持し、私生活を充実するための取組であることを、繰り返し学校全体で確認する必要があります。
○ 人々が多様な価値観を持ち、社会が刻一刻と変化していく状況に対応するために、学校全体で実施すべき研修を検討するとともに、一人ひとりの教職員が個人として向上させたい資質は何かを考えることを促進する必要があります。

５　学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○ 令和５年は運動・文化双方の部活動が全国レベルの大会等へ出場するなど、様々な方面で生徒が活躍することによって、いなべ総合学園の知名度が向上し、また、就職・進学共に大部分の生徒の進路希望を実現するなど、総合学科の魅力を遺憾なく発揮することができた。今後もこのような成果を残していくために、現在の学校規模を維持して、総合学科としての特色的な取組を継続していってほしい。 ○ 県の事業として今年度取り組んだ読書活動推進事業で実施したイベント等は興味深い取組であったので、いなべ総合学園に在籍する多様な生徒にとって学校図書館が居場所の一つとして位置づくよう、継続して取り組んでほしい。

	○　今年度、新たな形態で取り組んだ信頼向上委員会で検討した内容について、具体的な改善につなげ、教職員の資質や意欲の向上につなげてほしい。継続審議していくものがあるようなので、更なる取組を期待したい。 ○　多様な生徒が在籍していることから、生徒の声に耳を傾け、対話を行いながら粘り強い指導を継続してほしい。 ○　きずなネット等で適切に情報発信してもらっている。引き続き、こまめな情報発信をお願いするとともに、不信感を抱かないためにも悪い情報も共有してほしい。

6　次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	○　授業力向上・授業改善のために校内において相互に授業見学に取り組むとともに、中学校との連携を模索します。 ○　自分を大切にするとともに他者も尊重する人権教育の考え方を基盤とするとともに、対話に基づいた教育活動を継続し、いじめや問題行動等に適切に対応し、誰もが安心して暮らせる学校づくりを進めます。
学校運営についての改善策	○　本校の社会的使命、本校で学ぶ生徒に育みたい力等について検討し、具体的な目標として明示できるように取り組みます。 ○　様々な機会に、管理職から総勤務時間の縮減、年休取得の大切さを訴えるとともに、教職員一人ひとりが「やらされ感」を持たないような業務推進に努めます。 ○　管理職と教職員の対話を大切にし、様々な会議で誰もが安心して自分の意見を述べることができる、風通しの良い職場づくりに、継続して取り組みます。